

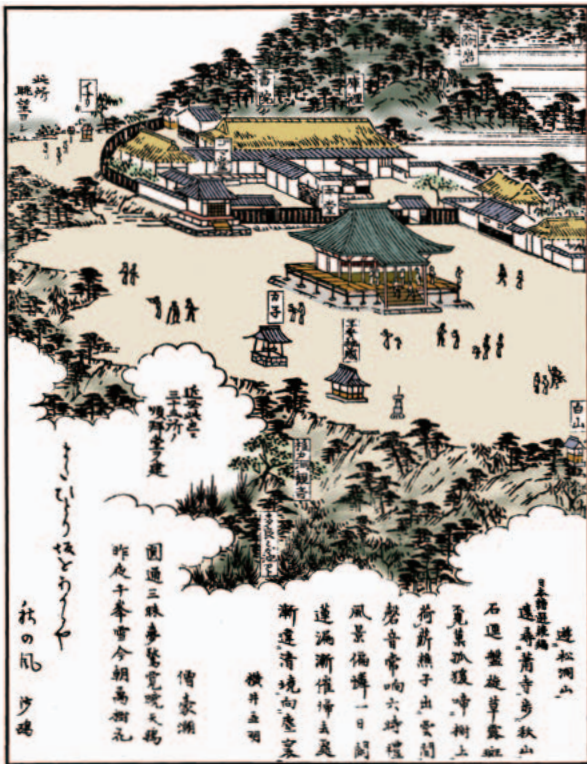
なごやのまち
今昔

尾張名所図会

龍泉寺

名古屋守山区龍泉寺一丁目

名古屋のまちを見守る絶景の地



※現在の地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に描かれている江戸時代の龍泉寺の様子です。

龍泉寺は天台宗の寺院で松洞山大行院と号し、延暦年間、伝教大師最澄の創建といわれています。古文書「龍泉寺記」には「その昔、伝教大師が熱田神宮に参籠中、龍神のお告げを受け、龍の住む多々羅池のほとりでお経を唱え、龍が天に昇ると同時に馬頭観音が出現したので、これを本尊として祀った」と記述され、寺の名前もこの話に由来するといわれています。

龍泉寺は、庄内川を望む高台にあり自然の要害の地で周辺を一望できることから戦国時代末期には軍事的価値を認め城が築かれたと言われており羽柴秀吉も小牧長久手の戦い時に使用しています。現在でも境内の周囲の一部に空堀状の跡が残っています。1584年(天正12年)1906年(明治39年)二度の火災に遭うが、1598年(慶長3年)1911年(明治44年)に再建されています。

境内には、仁王門、木造地藏菩薩立象の重要文化財をはじめ円空作の馬頭観音をはじめ多くの仏像が所蔵されています。

また、名古屋城築城時に城から見て鬼門の方角にある笠寺観音、龍泉寺、荒子観音、甚目寺観音の4寺を鎮護として定めたとされ、尾張四観音と呼ばれています。四観音では、毎年2月3日に節分会が行われますが、その中で恵方にあたる寺では、特に盛大な節分会が行なわれ、恵方は、笠寺観音、龍泉寺、荒子観音、笠寺観音、甚目寺観音の順に5年で一巡しています。(笠寺観音の恵方が2回)



山門(重要文化財)



本堂

◆関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。
「尾張名所図会後編四」岡田啓 / 著 愛知県郷土資料刊行会 (Sc- ア)
「守山市史」愛知県守山市役所 / 発行 (2B21 63)

「守山区の歴史」愛知県歴史資料刊行会 (Sc- ア)
「写真図説名古屋の史跡と文化財」名古屋市教育委員会 / 著 (Sc- ナ)